

## □■受験対策ミニ講座 5号 2020□■ (養成所ニュースプラス第11号)

10月も2週目となりました。「何から手を付けたらいいの...」と迷っている方は、しっかりした解説のついた参考書を使って、とりあえず過去問にひととおり当たってみることをお勧めします。「“人体”から始めたけど、最後の科目まで行きつかなかった」という話はよく聞きます。苦手科目と得意科目を見極めて対策を練るために、なるべく早い時期に全体を俯瞰してみることが必要です。学習を始めると、未知の言葉に出会います。でも大丈夫！知らないからこそ学ぶのです。過去問を通して、広く深く学ぶことからスタートしましょう。

今回のテーマは「人物と業績」。科目は「相談援助の基盤と専門職」「地域福祉」「児童」「障害」「低所得」等々、多岐に渡ります。

### ■Plus Quiz . . . . .

【問題5】日本の社会福祉の発展に寄与した人物について適切なものを選び。(30回 93)

1. 石井十次は、医療ソーシャルワーカーとして実践に携わった。
2. 浅賀ふさは、北海道家庭学校を創設し、感化教育を実践した。
3. 岡村重夫は、社会関係の主体的側面に焦点を当てた社会福祉固有の視点と領域を提起した。
4. 留岡幸助は、ケースワーク技術や援助プロセスにおける理論を発展させた。
5. 竹内愛二は、「無制限主義」を掲げ、孤児を救済する民間事業を展開した。

答えと解説は最後に記載してあります。

### ■Plus Column . . . . .

【興味と関心を強みに】

テレビのワイドショーや週刊誌には、いわゆる「芸能人」と言われる人たちの噂話が満載です。人間が社会的存在である限り、他人に関心を持つことは当然のことなのだろうと思います。社会福祉士を目指す人は、とりわけ“人間”に興味をもっていることが多いように感じられます。もしそうなら、それはあなたの強み(ストレングス)です。その強みを生かして、どんな時代に生きた、どんな人だったのか、関心をもって学んでください。

例えば、国家試験にもよく登場する当協会の初代会長石井亮一。明治の中頃、日本初の知的障害児施設となる滝乃川学園を創設しました。後に妻となる筆子は亮一より6歳年上で、明治初期に政府の命で欧州に留学した後、華族女学校のフランス語教師を務め、外交で重要な役割をもっていた鹿鳴館に招かれ「鹿鳴館の華」といわれたそうです。23歳で政府高官だった男性と結婚し三女を授かりますが、まもなく夫が、そして次女と三女も病気で亡くなります。長女には知的障害があり、女学校の校長となっていた筆子は長女を滝乃川学園に託しました。その後、42歳の時、亮一と再婚し、それから長い年月を共に滝乃川学園で過ごしました。71歳の時、脳溢血で倒れ車いす生活となりますが、亮一の死後は二代目園長として、昭和19年に83歳で亡くなるまで、戦中の困難な時代の学園を支え続けました。

法制度も整っていなかった時代、二人はどんな思いで学園を運営していったのでしょうか。二人には渡米体験があり、筆子は後に津田塾大学を創設する津田梅子と生涯の友人でした。いろいろなエピソードから人物像が浮かび上がってきますね。先駆者たちは、現在からすると考えられないような苦難の中で大きな足跡を残しました。

因みに、児童福祉に名を残す“もう一人の石井さん”がいます。岡山県で岡山孤児院を創立した石井十次。同時代ですが、石井亮一は佐賀県出身で、二人の間に姻戚関係はないようです。

(参考文献)山田火砂子・車取ウキヨ『筆子、その愛』、有明書院、2006年

### ■Back Number . . . . .

過去のバックナンバーはこちら→[http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page\\_id=2686](http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686)

【Plus Quiz . . . . . 答えと解説】

「人物と業績」は色々な科目で出題されます。「人物とその時代」を理解すると、確実に実力がUPします。

1. ×石井十次は、岡山孤児院の創設者。無制限主義を掲げ、小舎制を採用しました。
2. ×浅賀ふさは、日本最初の医療ソーシャルワーカー（聖路加病院）といわれています。
3. ○
4. ×留岡幸助は、北海道家庭学校を創設し、感化教育を実践しました。
5. ×竹内愛二は、ケースワーク技術や援助プロセスにおける理論を発展させました。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus